円窓付土器

弥生時代中期

円窓付土器は、体部上位に大きな楕円形の孔をもつ壺形土器である。口縁や頸部に刺突文や数条の沈線をめぐらせるものもあるが、全般的に装飾的な文様は少ない。尾張地域を中心に分布しているが、その大半は朝日遺跡で出土したものである。弥生時代中期後葉の墓域とその周辺から出土することが多く、居住域で見つかることは少ない。

また、焼成後に穿孔されるものがあること、屋外に放置され風雨にさらされていたことを示す「風化痕」がみられるなど、墓に供えられていた土器と共通する特徴が認められ、墓域での祭祀に用いられた土器と考えられている。

台付円窓付土器

史跡貝殻山貝塚に隣接する地点の発掘調査では、比較的限定された範囲で多量の円窓付土器が出土している。

赤彩土器

弥生時代後期～古墳時代前期

弥生時代後期の尾張地域を特徴付ける赤彩土器は、ギリシャのクレタ島クノッソス宮殿跡出土の宮廷式になぞらえて「パレス・スタイル土器」とも呼ばれている。

器肌は白色を呈し、直線文・波線文・斜行線文・列点文などを組み合わせた文様帯と赤色顔料を塗布した赤彩帯で装飾される。弥生時代後期は最も装飾が華やかな時期で、広口壺の他、小型壺、高杯、ブランデーグラス形の高杯、器台など多くの器種がみられる。

終末期以降は、赤彩は壺のみに施されるようになり、古墳時代前期まで製作された。

赤彩土器　壺1

赤彩土器　壺2

赤彩合子

弥生時代後期初頭の方形周溝墓から出土した。底部には透かしが施された高台が付き、身は筒形を呈する。蓋の外面には鋸歯状文が描かれている。身と蓋それぞれに二孔一対の紐孔が穿たれている。同形の土器は、本県豊田市の川原遺跡から出土しているが、類例は極めて少ない。

朝日銅鐸

弥生時代後期

朝日銅鐸は、南居住域の南端、弥生後期の環濠と方形周溝墓とのわずか 3 メートルほどの間で発見された。長さ 0.6 メートルの楕円形の坑に、鰭を上にした横向きの状態で納められていた。意図的に集落の南端に埋められたものとみられる。

銅鐸は弥生時代を代表する国産青銅器の一つで、農耕祭祀に用いられた祭器である。銅鐸の多くは、集落から離れた、山の中腹、谷の奥などで偶然発見されたものであるが、まれに朝日遺跡のように集落内に埋納された例が知られている。

B 面

内側

銅鐸飾耳

朝日銅鐸とは別地点で出土した近畿式銅鐸の飾耳部分の破片である。

銅鐸の埋納位置と出土状況

巴形銅器・金属製品

弥生時代後期

巴型銅器
表面

朝日遺跡からは、銅鐸や巴形銅器以外にもさまざまな青銅製品が出土している。その種類・量とも東海地方の弥生時代集落のなかで際立っている。

巴型銅器 裏面

銅鏃

朝日遺跡の金属器でもっとも点数が多いのが銅鏃である。有茎鏃が主で、身の形はバリエーションが多い。

破鏡

現存長 4.6cm　虺龍文鏡。復元径は 7.4cm、外区を中心とした破鏡である。破断面はよく研磨され、2 つの紐孔が穿たれており、垂飾として利用されてものである。

筒形銅製品

円形の平坦面をもつ筒形の青銅器。先端に孔が穿たれていることから、垂飾として使用されたとみられる。

青銅器鋳造関連資料

朝日遺跡では、鋳型の外枠の可能性がある焼けた土の塊、溶けた銅の素材が固まった銅滴がみつかっており、銅鐸など青銅器の鋳造が行われていたとみられるが、まだ決定的な証拠は発見されていない。

勾玉・管玉

弥生時代中期

玉類の製作は朝日集落でおこなわれた手工業生産のなかでも、もっとも専門性の高いものの一つであった。工房は集落の限られたエリアに配置され、他地域産の石材や高度な技術が用いられていることから、専門の工人集団が集落内に居住していたのではないかとみられている。

工房跡からは緑色凝灰岩製の管玉、ヒスイ製の勾玉などが出土している。原石、未製品、細かな破片といった玉類の各製作工程を示す資料の他、施溝具として用いられた石鋸、穿孔具とみられるメノウや水晶などの石錐（石針）、溝のついた砥石など、ひととおり工具類が出土している。

玉作りは、北陸や近江からの技術的な影響がうかがえ、原石や工具類もこれらの地域から持ち込まれた可能性が高い。専用の工房が備えられていたことからも、玉作りに携わった技術者は外部からの移入した特殊な集団だったと考えられ、北陸方面からの原材の入手、太平洋側での製品の流通など、広い範囲での交流に関わっていたのかもしれない。

玉作り工具と管玉の製作工程

ヒスイ製勾玉の未製品

貝殻山貝塚

弥生時代前期

貝殻山は、地元の人びとの間では、古くから貝塚として認識されてきた。昭和４年に最初の発掘が行われ、この地点を最初に調査した加藤務は、「貝殻山と呼ば れる小山を中心に其の附近の畑一帯一敵に渡って三尺乃至一丈餘の厚さの貝層が扱っている」と記している。貝塚からは、ハマグリ、カキ、シジミなどの貝殻とともに、弥生時代前期の遠賀川系土器を主体とする遺物が出土している。このエリアは、弥生時代の朝日遺跡のなかでもっとも古く、最初に人びとが住みはじめた集落としての出発点であった。

昭和 46 年 12 月に、初期弥生文化が伝播した東端の様相を示す遺跡として、貝殻山貝塚を含む 10169m2 が国史跡に指定された。

貝殻山貝塚（昭和46年）

◀弥生時代前期の貝層

◀貝層から出土した貝

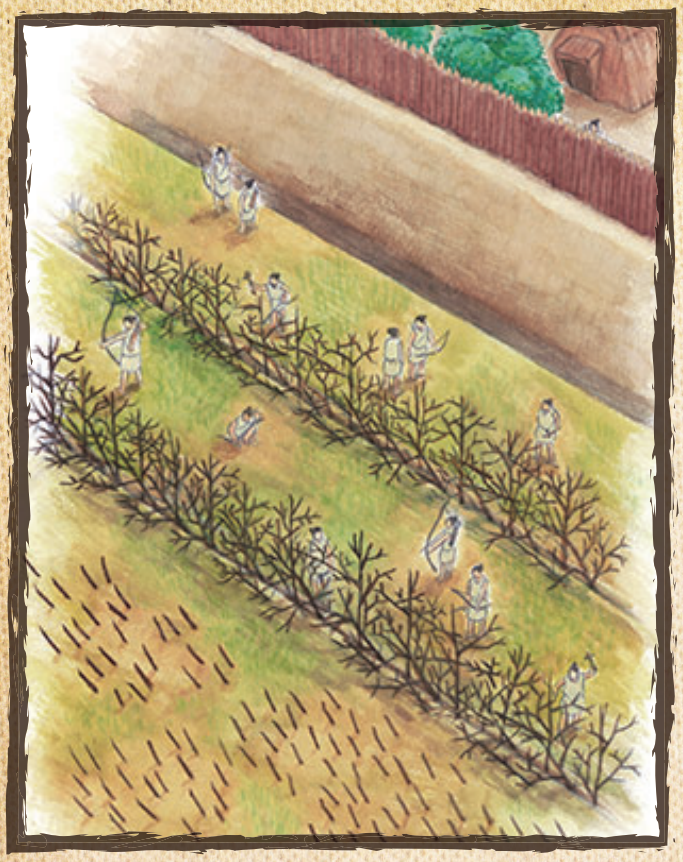
平成７・８年度の発掘調査では、史跡隣接地で環濠とみられる弥生時代前期の溝がみつかっている。この溝は幅 2.5 ～ 4.5mの断面が箱形の環濠で、史跡指定地の南側をかこむようにめぐっている。この環濠にはカキ、ハマグリなどの貝殻が厚く堆積し、弥生時代前期から中期初頭の土器や石器が出土した。貝殻山貝塚周辺の前期弥生集落は、弥生時代の象徴ともいえる環濠集落として成立したことが判明したのである。

貝殻山貝塚（昭和46年）

朝日遺跡のほぼ中央に位置する塚状の遺構である。

弥生時代中期から後期の貝塚として、昭和 43 年 11 月に貝殻山とともに県史跡に指定されている。その後、環状二号線の建設にともない塚の周辺を発掘調査したところ、塚を囲む二重の周溝が確認された。周辺から須恵器や埴輪片が出土しており、現在では５世後半から６世紀初め頃の円墳ではないかと考えられている。弥生時代の集落終焉後の朝日遺跡の様子を伝える遺構である。

検見塚は現在も清洲ジャンクションのなかに保存されているが、道路に囲まれ直接墳丘部分に訪れることはできなくなっている。



多重防御施設

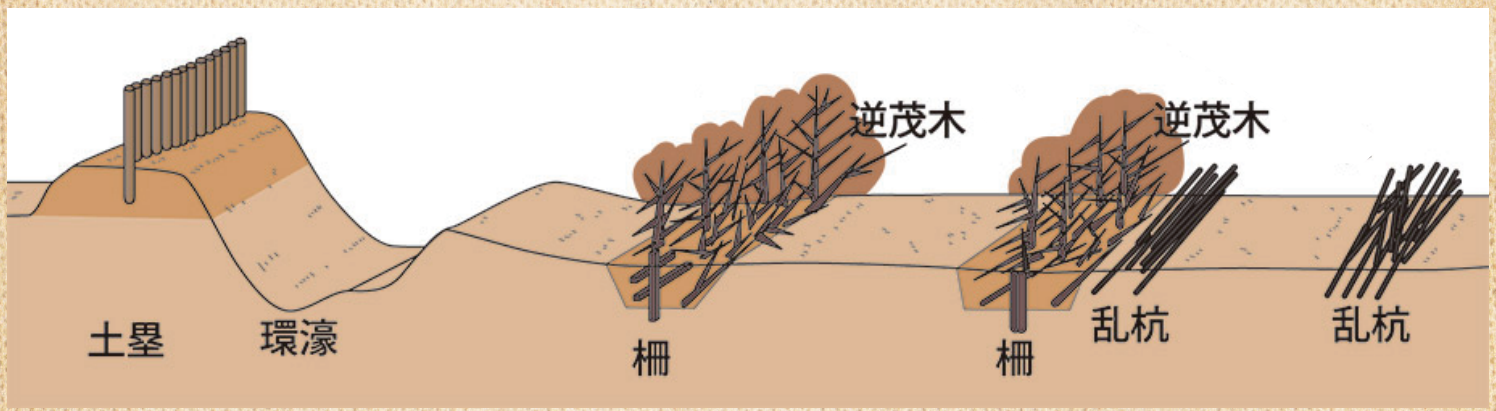
弥生時代中期

弥生時代は、集落間や地域をこえた争いが何度となく繰り返された時代でもあった。弥生文化の広がりとともに、戦いにそなえ堀をめぐらせた、環濠集落が各地に現れた。

朝日遺跡も環濠集落のひとつだが、ここではさらに強固な防御施設が発見されている。弥生時代中期の北居住域では、環濠と土塁が築かれ、その外側には、枝がついたままの木をからめた逆茂木、斜めに打ち込まれた乱杭など、何重ものバリケードがつくられていた。

全国でも初めて発見されたこれらの防御施設は、集落の城塞的な姿をうかがわせ、それまでの牧歌的な弥生時代のイメージを「戦乱の弥生時代」へと大きく変えていくことになった。

多重防御施設の構造



集落外からの侵入を阻むため、環濠の外側に設けられたバリケード。溝の中から枝が付いたままの木が幾重にも重なって出土している。溝の中に杭を打ち込み、縦木、横木、斜めに枝のついたままの木（逆茂木）をからませ、溝を埋め戻して固定する構造だったと考えられている。逆茂木の外側には、斜めに打ち込まれた乱杭がめぐっていた。

逆茂木

乱杭

ヤナ状遺構

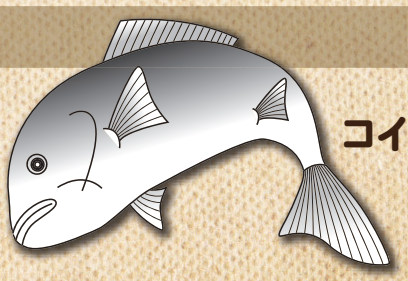
弥生時代後期～終末期

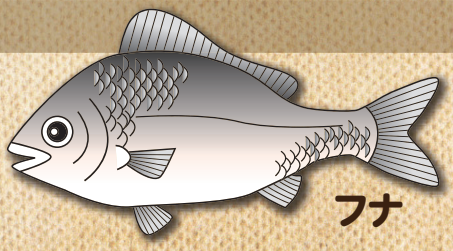
弥生時代後期には、中期まで環濠として使われていた溝のなかに、魚を捕獲するヤナとみられる施設が設けられていた。上流に作られた木組みで水流を調節し、下流に作られた簀との間に追い込んだ魚を捕獲する仕組みになっていたようだ。

朝日遺跡で最も多く出土している魚類はコイ、フナなどの淡水魚である。自然の河川だけでなく、集落に近い人工的な水路においても漁労活動が行われていたことがうかがえる貴重な発見である。

ヤナ漁の復元画・ジオラマ

コイ・フナなどの淡水魚





大型方形周溝墓

土器棺

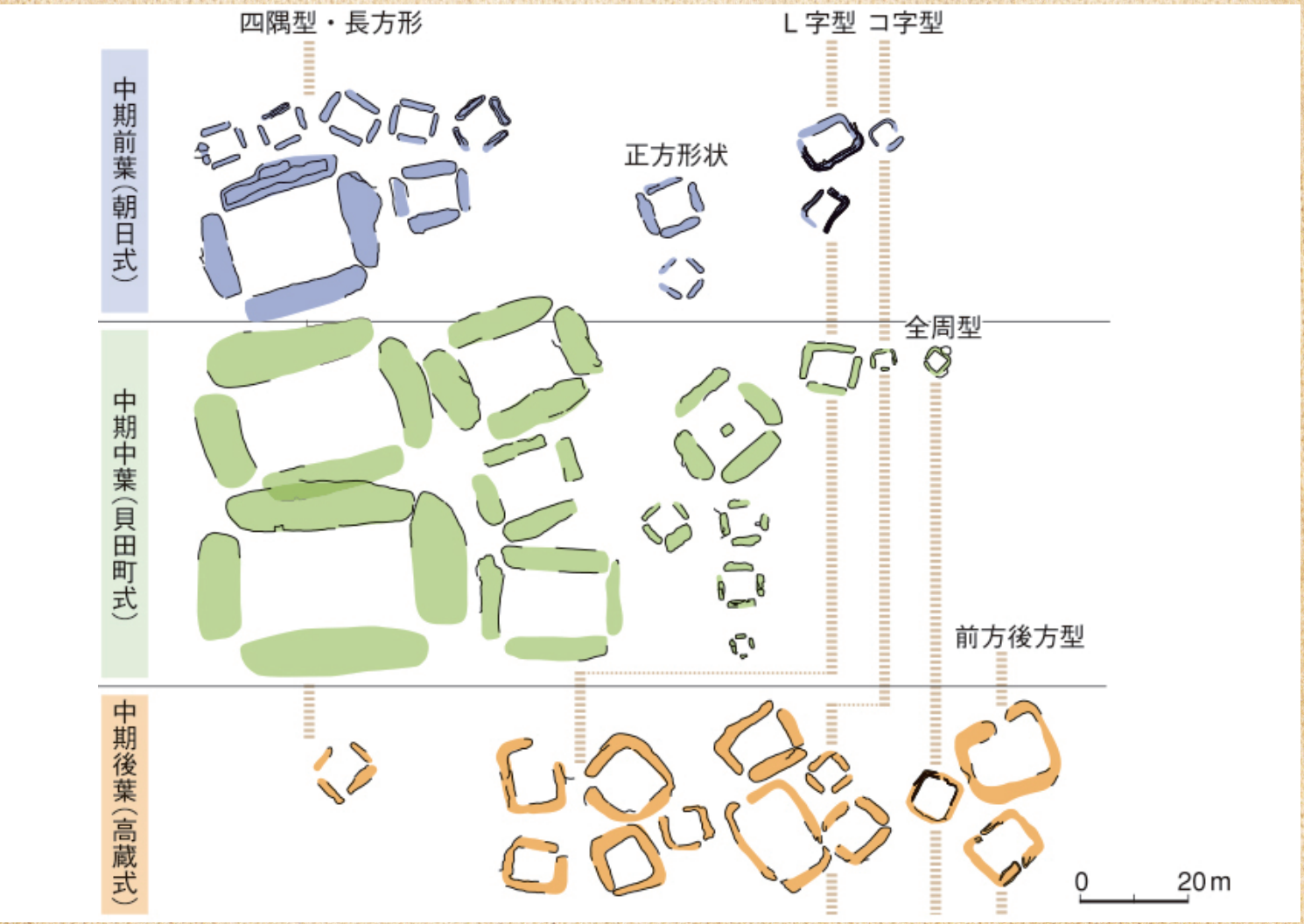
大型方形周溝墓

弥生時代中期

朝日遺跡では、弥生時代中期前葉から造墓活動が明らかになっている。谷の南北の居住域をはさんで、東と西に方形周溝墓を主とする大きな墓域がつくられ、それぞれ東墓域、西墓域と呼んでいる。

この二つの墓域には、墓の形や造営の仕方に大きな違いがある。西墓域は東墓域より若干古く５～10mの中型サイズの墓にほぼ統一され、連接または列状に配置されている。一方、東墓域は、核となる大型の墓が築かれ、これをとりまくように中小の墓がブロック単位でつくられていった。東西墓域の違いは、集落に居住した人々の出自や階層の違いを表しているのかもしれない。

弥生時代中期の方形周溝墓の形と大きさ



朝日遺跡では、方形周溝墓の他にも、土器を使用した土器棺墓、墓坑に直接埋葬する土坑墓などがある。

発掘された人骨

弥生時代中期

貝殻山貝塚で発掘された人骨は、棺などの埋葬施設はみつからず、埋葬体位は横臥屈葬であった。当時の鑑定によれば、いずれも熟年の男性で、身長は約 160cm と推定されている。当時は弥生時代前期の土器をともなう層位から出土したことで、弥生時代前期の人骨と報告されたが、これには異論もあった。今日の見解では、弥生時代中期以降に貝層の上から掘り込まれた墓坑だったと考えられている。

その後、平成 7 ～ 8 年度に貝殻山貝塚隣接地で行われた発掘調査でも、20 体以上の埋葬された人骨が確認されている。

土坑墓に埋葬された人骨